

南アフリカ共和国～アパルトヘイトを超えて 2

東京都練馬区立大泉中学校 彦坂好郎

地理

歴史

公民

地図

社会科

グローバル化の波

2010年にアフリカ大陸で初めて、サッカーワールドカップ開催を経験した南アフリカ共和国（以下、南アフリカ）。国内では30万人分のワールドカップ関連雇用が創出され、2010年の実質GDP成長率は2.8%となった。貿易では輸出が前年比14.8%増の5,872億9,150万ランド*、輸入が5,810億620万ランドで、62億8,530万ランドの黒字である。高所得者のなかには、120万ランド（約1440万円）が毎月の出費だという黒人も存在する。かつてアパルトヘイト時代に差別され続けた黒人にも、社会進出のチャンスは均等に生まれた。

現在ある南アフリカの経済的成長の要因には、経済のグローバル化があげられる。南アフリカの大手企業には、国際展開力の優れたグローバル企業が多い。石炭液化を推し進める企業、携帯電話をアフリカ中に普及させた会社、病院その他で欧・中南米に進出する企業も南アフリカ人出身の経営者が創設にかかわっている。また日本企業のグローバル化の波も、南アフリカの経済成長を後押しする。関西大手の塗装会社も南アフリカに進出を始めた。

さらに現在アフリカ大陸では、さまざまな自由貿易協定(FTA)が推し進められている。1992年南部アフリカ開発共同体(SADC)が発足、自由貿易地域が広がった。その後2008年南部アフリカ関税同盟(SACU)とヨーロッパとの間で自由貿易協定が発効した。2018年にはSADC域内で共通通貨導入をめざしている。この国境を越えた広域協力経済活動は、豊富な鉱物資源と労働力を保有する南アフリカの将来に大きく影響力を及ぼしている。

広がる経済格差の現実

このグローバル化の波は、国内に深刻な経済格差を生み出す。アパルトヘイト時代に教育の機会を与えられなかった黒人たちの間で、現在雇用の機会を得られた人は一握りにすぎない。失業率25.3%（2010年）のなか、黒人間の失業率は50%前後にも膨れ上がる。南アフリカの平均的な給与水準は、日

給100ランド（約1200円）程度。無届で商売をする路上のインフォーマルセクターに従事する人々の低年齢化



南アフリカで出会ったお母さん

は、この国の深刻な問題である。就学率は95%以上であるが、中等教育就学率は約60%（2006年）まで落ち込み、半数近い子どもたちが中等教育を受けずにいる。上水道の普及率は都市では99%に対し、農村では73%（2001年）。電気・水道そしてトイレもない家に住む人々は、経済成長の恩恵を受けることなく、ドラッグ、アルコール、犯罪、失業、食料不足、孤児などの現実と直面する。このような暮らしのなかで、貧困層を中心にHIVの感染が広がり、この国の平均寿命は54歳（2009年）である。

日々の現実を生きる

現在700万人以上の黒人がソウェト（黒人居住区）に生活するが、そこには世界一といわれる経済的な格差がそのままの形で残っている。子をおぶったまま一日中物乞いを続ける親が、あちらこちらの交差点にあふれる。写真の女の子は14歳。後ろに写る子どもの母親である。その子の隣に座るのは、30代のおばあちゃん。

2010年のクリスマスイブ。それでも、この国の経済状況は決して悪くない。広い庭、プール付きの豪邸に住む白人や豊かな暮らしをする黒人たち。そして賑わう巨大ショッピングモール。街はクリスマス一色となり、大いに賑わいを見せた。しかしそのイブの夜にも、私は交差点で物乞いをする裸足の少年を見た。私は車の窓を力なくたたきその子に、5ランドコインを一つ渡した。その5ランドは、何の意味があったのか。

世界で進行するグローバル化は、人々の経済格差を広げ、南アフリカでも確実に進行している。

* 1ランド=約12円（2010年12月当時）